



第58号

発行/社会福祉法人 素心会
責任者/事務局長 高瀬 尚人

〒259-0103

神奈川県中郡大磯町虫塙39番地1

TEL. 0463-71-1255

レイアウト・印刷 貴峯荘ワークピア



平成28年 納涼祭について

長い梅雨が明け、夏の暑さが本格的になつてきました。8月6日の土曜日、素心会の納涼祭が行われました。幸い天気にも恵まれ、今年も多くの方に足を運んでいただきました。

模擬店は17時30分からスタートしました。毎年恒例のやきそば、焼き鳥の人気は変わらず、今年はローラーケーキ、三色ムース、アイスなどデザート類を充実させました。またゲームコーナーは、祭りの雰囲気が出せるように屋台で見られるようなキャラクターのお面を飾り、景品としても提供して大盛況でした。ディセンターの生活2班で行っている紙つきで作ったうちわを来てくださった皆さんにお配りしました。

地域支援センターそしんは、草木染めの販売と日頃の活動の展示での参加となりました。

イベントゲストは今年、GIFTHOUSE(ギフトハウス)さんと橋本優紀さんにお願いしました。利用者さんやご家族の人たちにもなじみのある曲を中心に、演奏が続く中で、誘われるようにお客さんがステージの前に集まり、リズムに合わせて踊っている様子やうれしそうな表情が見られました。

演奏の後は、毎年お願いしている大磯レクリエーションクラブの方たちを中心とした盆踊りが始まりました。この時間にはあたりも暗くなり、ちょうどさんの灯りがより祭りの雰囲気を出していました。盆踊りが終わると、毎年皆さんが楽しみにしている打ち上げ花火です。後援会からのご寄付により、花火師による盛大な打ち上げ花火が上がり、今年の納涼祭が終わりました。

ご来場くださいました多くの皆様、また力をお貸しくださいました多くの方々、ありがとうございました。

納涼祭実行委員長 素心ディセンター 石森健太郎



むじくぼ ニュウヨンバンチ
虫塙24番地

子どものころから音楽を聞くことが好きだった。小学校の運動会の音楽、勉強しながら聞く音楽、通勤中に聞く音楽。私が単純だからか3分間で気分を変えてくれる音楽はとてもすてきだと思う。

大学生のとき友人とバンドをやる機会があった。自分で楽器を弾いてみるとそれまで意識していなかつた色々な音が聞こえてくるようになつた。そんな風に自分の知らないものや聞こえていないもの、見えていないものは世の中にあるふれ返っているのだと思う。

ささいな選択の連続で今の自分があるのだけれど、もし別の選択をしていたらどうなつていたのだろうと考えことがある。一つでも違う選択をしていれば仲の良い友人と出会うこともなかつたかもしれない。もしかしたら出会うかもしれないなかつた人や経験したかもしれないことを考えると何とも不思議な気持ちになる。きっと知らない今まで良いことだってあるのだろう。かといって今までに後悔は特になくこれで良かったとも思っている。素心学院 支援一課

一 楽 貢 允

特別な友達

地域支援センター——宮ルミの娘より寄稿

国府小学校 六年一宮 珠生

登校中にじこじこしながら、手を振ってくれる女性がいる。母が働いている知的障害者施設に通っている女性で、何度も会うているうちに笑いかけてくれるようになった。

知的障害者と聞くと、「怖い」とか「気持ち悪い」などと思う人もいると母から聞いていた。また、「家の前を散歩するな」と施設で苦情があつたこともあるという。どうしてそんな言葉が出てくるのだろう。彼らがその人たちに何をしたというのか。

私はこの夏、施設の夏祭りに参加した。少し緊張していたら、朝云う女性がいつもと同じ笑顔で近づいてきて、握手をしてくれた。私の緊張は気消えた。彼女の名前はNさん。私の母より年上だ。Nさんは私の名前を教えてほしいとメモを差し出してくれた。字が読めているようないような不思議な表情を浮かべていたが、「所懸命」たまちゃん。たまちゃん」と覚えようとされていたことがとてもうれしかった。Nさんは、私のことを喜ばせようと、食べ物を運んでくれたり、手を引いてくれたり、顔をのぞき込んで笑いかけてきたり、本当に所懸命だった。私はNさんと友達にならなかった。Nさんは施設にいる人たちのことも紹介してくれた。叫び声をあげている人、無心に食べ物にかじりついている人、不思議な話を何度も繰り返す人などもいた。確かに、私の周りにいる人たちとは少し違っていた。けれども、それが怖いとか、嫌だという感情は私には湧かなかった。なぜならば、彼らの笑顔がとても自然だったからだ。なんうれしそうに笑うんだろう、なんて美味しそうに食べるんだろう。その笑顔を見ていたら、愛想笑いをついてしまふ自分が情けなく思えてきた。

知的障害であるため、できることがあるのも事実。時には他人へ迷惑をかけてしまつこともあるだろう。でも、彼らは日一日精一杯生きている。そして心からの笑顔という私たちには欠けている魅力が彼らはある。私はまだ彼らのことを知らない。もう障害について知りたいと思った。そしていつか、手助けができるような大人になり、学びつつ支えあっていけたらなと思った。今はまず、彼らが「怖い」など呼ばれる存在ではなく、とても魅力あふれる人たちなんだと伝えていくことに力を尽くしたい。

花だより

●大村田輪子さんについて

大村さんは笑顔がとても可愛らしい方です。寮の扉を開けると、廊下の奥の大村さんと目が合います。すると「おかえり」と笑顔でお辞儀をし、抱擁で出迎えてくれます。

支援員室の窓をこつこつとたたき、「おいで」と手招く姿のなんと愛らしいこと。

そんな彼女の笑顔は日常のあらゆる場面にあふれており、例えばテレビに動物が映れば「ネコちゃん」「お馬さん」とにこにこ。とりわけ猫を好み、身の回りの持ち物にも猫をあしらったものを多く使用されています。日中活動でも猫のシールを貼ったキヤップ置きを、とても熱心に取り組まれています。

7月には69歳の誕生日を迎え、古希のお祝いとして花が贈られました。日頃アイスクリームを好んでいることもあります。寮ではアイスケーキでお祝いしましたが、その際もやはり満面の笑みで召し上がっていました。

今までの食事は、ミキサー食を飲むように摂られていましたが、プリン状の柔らかい物をスプーンで食べることもできるようになりました。今年は味覚の秋をより楽しんでいただけのではないでしょうか。

また、職員や利用者を「大丈夫?」と心配するなど思いやりにも満ちており、季節を問わず「きよしこの夜」を、身振り手振り交え、さながらそこがステージであるかのように歌い踊って私たちを楽しませてくれます。入浴日でなくとも脱衣所に来るくらい大好きな風呂でも気持ち良さそうな歌声を聞くことができます。彼女のその可愛らしい笑顔が曇らぬ日々となるよう支援していきたいと思つております。

素心学院 支援 課 飯田 沙耶

●石塚謙一さんについて

「おはよう!」毎日明るく元気な挨拶といえばこの方、石塚謙一さんです。職員が出勤すると必ず元気に挨拶をし、「今日もよろしくね」と話しかけてくれます。

寮内ですれ違つたときには「ここにちは」、職員が帰る際にはベランダから大きな声で「さようなら、また明日ね」と言つてくれるときもあります。誰にでも分け隔てなく接して気持ちのいい笑顔を見せてくれる石塚さんは職員にとつての癒しでもあります。そんな石塚さんは今年で58歳になりますが、日常生活においては食堂の清掃を自ら率先して行い、学院の電話が鳴つた際には大きな声で職員に知らせてくれます。それから、寮の勤務表のボードの写真を毎日貼り替えるお手伝いをするなど、アクトイブな方で職員にとつても非常に心強い存在です。また、野球好きな一面もあり、野球中継を見て、巨人や阪神のユニフォームを着ています。9月に行われた全体旅行では、水族館や動物園でたくさんの動物たちにとても興味津津な様子で、えさをキリンに向かって一所懸命あげようとしている姿は見えていてほほえましく思いました。夜の宴会では美味しい料理を食べられ、利用者の皆さんが参加したカラオケでは歌を楽しんでいました。きっと石塚さんにとつてこの上ない楽しい旅行になつたのではないかと思います。還暦も近づいていますが、変わらず健康な生活を送れるよう支援していきたいと思つています。これからも石塚さんの元気で明るい挨拶をみんなに聞かせてくださいね!



素心学院 支援一課 今野 勇作



全体旅行について

9月6日～7日に素心学院では約10年ぶりの全体旅行を行いました。近年の旅行は5グループに分かれて実施していましたが、今年は伊豆長岡ホテル天坊を貸切り総勢107名で泊まることができました。

行きと帰りについては年齢や個人個人の体力に合わせ、3つのコース（ショート・ミドル・ロング）に分かれて行動しました。



ショートコース

素心学院
支援二課
見浦 亜樹

ショートコースはサービスエリアでの買い物と宴会を満喫するコースです。学院を出発し車内では「楽しみだね」「何を買おうかな」という声がとびかっていました。

足柄サービスエリアに到着。富士山をモチーフにしたキー・ホールダーやぬいぐるみ、お菓子などをたくさん買わっていました。帰りの車内では疲れた様子が伺えましたがサービスエリアに到着すると笑顔が戻り買い物や食事を楽しみました。学院に戻ってから昼食を食べましたが、みなさん胸がいっぱいなようで半分程食べると居室やロビーで買ってきたお土産を広げ思い出話に花を咲かせていました。



ミドルコース

素心学院
支援一課
小林 雪友

一日目は、学院にて昼食を摂った後ショートコースより一足早く出発。途中足柄サービスエリアにて好きなおやつを購入し、ホテル天坊へ到着。入浴後、総勢100人オーバーの大宴会にて皆で盛り上がり、そのためか男性はすぐに就寝される方がほとんどでした。

二日目は御殿場高原ビールグランテーブルにてランチ。海老の揚げ物・サーモンのサラダ・ソーセージ・ピザ・スペアリブ・中華ちまきなど食べきれないほどのご馳走に大満足されていました。帰路は沢山食べたためかバスに揺られウトウト…。夕方の全体旅行でしたが大盛況でした。



ロングコース

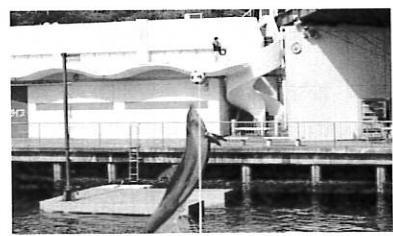
素心学院
支援二課
秋山 華奈

ロングコースは一番長いコースで行程の内容も盛りだくさんです。

一日目は伊豆酪農王国オラッヂで昼食を食べ、三津シーパラダイスを観光しました。オラッヂではチーズハンバーグや搾りたての牛乳、ソフトクリームを食べました。皆お腹が空いているためか黙々とあつという間にたいらげ、「美味しいかったね」と満足そうな表情が見られました。三津シーパラダイスでは様々な海の生き物たちやイルカのショーを見ました。とても大きいジュゴンやカニには目を大きくさせ、イルカの大ジャンプでは今日一番の歓声が上がりました。ホテルに向かうバスの中では「すごかったね」「楽しかったね」と口々に感想の声がとびかいました。

二日目は伊豆アニマルキングダムに行き、沢山の動物たちにふれあいました。目玉のホワイトタイガーはお昼寝中で動いている姿はなかなか見られませんでしたが、キリンの餌やりを体験した際はその近さや大きさ、間近で食べる様子に「おお～」と感動の声が上がりました。ふれあい広場ではハリネズミやモルモットなどの小動物たちと触れ合うことができ、恐る恐る触ったり、「これは何という動物なの？」と係員の方に自ら質問したり、ジッと動物を見つめたりと思い思いに楽しんでいました。昼食は、げんなり寿司を食べました。とてもきれいで盛り付けられたちらし寿司で、お正月や結婚式などおめでたい時に食べる郷土料理に舌鼓をうちました。

帰りのバスの中は皆お疲れなのか寝て過ごす方が多く、とても静かでした。きっと頭の中は長旅での出来事がすでに思い出としていっぱいつまっていることと思います。



後援会 会員募集

会費の納入先

- 会費は個人一口、年 1,000円から
- 法人・団体一口、年 10,000円から
- 会員には、「新聞そしん」をお送りします。
- 行事のご案内などをします。

●銀行振込は
中南信用金庫国府支店
014-0139723
郵便振替はどこの郵便局でも
00270-0-19507です。

●口座名は
社会福祉法人素心会後援会
会長 鈴野七郎

※新しく会員になっていただける方は、
ご住所を電話等でお知らせください
ようお願いします。

●事務局
〒259-0103
神奈川県中郡大磯町虫窪 39-1
素心会後援会
TEL.0463-71-1255
FAX.0463-73-0009



素心学院 支援一課 小川 学
毎年3月が近づくと利用者の皆さんから「お神輿いつ来るの?」と話しかけられることが多いります。3月最後の日曜日に行われる菅原神社大祭のお神輿がされるようになつてもう10年になります。

毎年、ジユース、缶ビール、ワンカップ、スナック菓子、おつまみなどを用意し、おもてなしをしています。氏子、祭りの役員、かつぎ手の若い衆、子供達、お母さん方など多勢が見え、笛や太鼓のお囃子も参加されて大変にぎやかな状況になります。そして地域の皆さんのご厚意で一緒にお神輿を担がせていただいています。私も担いだことがあるのですが、すぐに肩がパンパンになり悲鳴をあげた記憶があります。利用者の皆さんも貴重な経験をさせていただき、感謝の念に堪えません。来年も再来年も地域の方々と利用者が力と声をあわせた元気な「ワッショイ」が聞けると思うと今から楽しみです♪

不審者侵入対応の研修について

9月30日

素心学院

地域交流室で大磯警察署の協力により、不審者侵入対応の研修が行われました。

一定の距離をとる。
相手に話しかけ続ける。
など対応のポイントをDVDで確認した後、玄関付近に移動しロールプレイングを行いました。警察の方が不審者役になり玄関から侵入して、「一斉清掃の時間です」という仮の合言葉が館内放送で流れると職員4人が集まりました。手にはそれぞれほうき・かさ・など身の回りにあつたものを持ち、不審者を囲み、言葉で説得。話しかけ続けることは難しく、途中、言葉に詰まってしまう場面もありましたが、手に持ったほうきなどを使うことなく、門の外まで誘導し退去させることができました。その後、警察の方より、さすまたの使い方や相手を威嚇するためほうきの使い方の説明を受けました。

対応のポイントも実際にに行ってみると難しく、怖さも少し感じましたが、今回の研修で、体験したことは貴重な経験になりました。

素心ディセンターラ 勝保 恵子

家族ペシリレー

渡邊 康江さん
兄 旬一さん



今年1月、前日まで元気に出歩いていた母が急逝しました。葬儀の日取りを決めたとき、最初に思ったのは妹にどう伝えるかでした。言葉で伝えても理解できないのではと思い、納棺に立ち会わせることにしました。妻と一緒に車で学院に向かい、妹を連れ安置所で棺に納められた母の姿を見せ、最期のお別れをさせてあげたかったのですが、内心では母がいなくなることが分かるのか不安でした。車の中で何度も母の亡くなつたことを話しましたがほとんど反応がなく、母との別れを理解させるのが無理だと半分諦めておりました。

葬儀場に着いて直ぐ、棺の中で眠る母と向き合い、もう一度「お母さんは死んだんだよ」と話し掛けると、母の顔を何度も触り、目を真っ赤にして静かにうなずきました。妹も母の死を自分なりに理解したのだと思います。

その後学院に戻るまでの間は黙つたままで、母との別れを悲しんでいましたが、学院に着くと、優しく気遣つて迎えてくれたスタッフの方々や院生の人たちに向けて、その日初めて妹の笑顔を見たとき、彼女にとっては、ここが我が家であり、学院の人たちが家族なのだ。そして、ここが一番の居場所なのだということが強く伝わってきて、あらためて学院の存在の有難さを痛感致しました。

これからは、母の役割をすべて引き継ぐことは出来ないと想いますが、兄として出来る限りのつながりを持ち続けてまいりますので、引き続き宜しくお願い致します。

素心学院

神奈川県中郡大磯町虫窪 39-1

TEL.0463 (71) 1255 FAX.0463 (73) 0009

素心ディセンターラ

神奈川県中郡大磯町虫窪 18-1

TEL.0463 (71) 1256 FAX.0463 (71) 1284

地域支援センターそしん

神奈川県中郡大磯町虫窪 18-1

TEL.0463 (70) 3577 FAX.0463 (72) 2577

さざんかホーム

神奈川県中郡大磯町国府本郷 1308

TEL.0463 (61) 1519 FAX.0463 (61) 1519

カモメホーム

神奈川県中郡大磯町大磯 1370-23 コープKY2F

TEL.0463 (61) 5404 FAX.0463 (61) 5404

つばきホーム

神奈川県中郡大磯町国府新宿 482-1

TEL.0463 (71) 0990 FAX.0463 (71) 0990

シーバルホーム

神奈川県中郡大磯町石神台 3-18-16

TEL.0463 (71) 3878 FAX.0463 (71) 3878

素心会
事業所
アドレス